

平成 27 年度 上越市外国語活動部 活動報告

部長 東條 善夫

1 研究主題

コミュニケーション能力の「素地」から「基礎」へとつなぐ外国語活動及び英語教育の授業改善

2 研究の概要

当部会では、平成 23 年度より、小中学校の「円滑な接続」に向けた指導の在り方について、小中学校の教員と市内に勤務する ALT が一堂に会して研修を重ねてきた。

今年度は、小・中学校の学習内容の「接続」を重視した指導の工夫について、市教育センター委嘱のスーパーティーチャーによる公開授業を通して、コミュニケーション能力の育成と授業改善、特に中学校では『英語による英語』の授業づくり』を提案し研修を深めてきた。

3 研究の実際

(1) 公開授業

期 日 平成 27 年 11 月 11 日
会 場 上越市立国府小学校（多目的室）
授業者 竹内 暁美 教諭
ALT Robert Laurent
单元名 「We are good friends.」
(Lesson 7 Hi, friends! 2)



内 容

- ・[Activity I] グループ毎に発表の練習をする→練習の進め方を確認する(ア 個人、同じ役で練習する。イ 場面ごとにグループ内でアドバイスし合う)。
- ・[Activity II] 中間発表をする。→それぞれの発表ごとに、よかった点や修正した方がよい点などについて出し合う。

(2) グループワーク

- ・協議題「思いや考えを伝え合い・学び合う活動を通してコミュニケーション能力を高める授業づくり～学級担任が主体的に取り組む外国語活動の授業を目指して～」について、ファシリテーション・グラフィックの手法でグループワークを行い、以下のように要旨をまとめた。



【効果的であった、工夫されていたこと】

- ・相手意識、目的意識をもったゴール設定により、主体的に動くことができていた。さらに、授業の UD 化の視点（表情やポイント、授業の流れなどの可視化、ジェスチャーの動作化）があり、どの子にも分かりやすい。

(3) 指導・講評（上越市教育委員会 学校教育課 指導主事 岩片 嘉和 様）

- ・小学校では、英語を使って役に立つ経験や、英語の音に触れて遊ぶ体験を多く積めるよう配慮し、英語を丸ごと受け入れる態度づくりに努めてほしい。
- ・劇をする側と見る側では、違った気付きがある。自分たちの様子を録画して学びを共有する。又は、昨年度の劇を見てイメージを膨らませる等の手立ても興味深い。学校のカリキュラムに取り入れ、見通しをもち、持続的に活動できるとよい。

4 成果と課題

今年度の提案授業は、目的意識、相手意識を明確にし、過程を重視した英語劇づくりや小・中・高の縦のラインを意識した『英語による英語』の授業づくり』は小学校英語の教科化の準備段階において大変参考になる提案となった。

今後は外国語教育における「CAN-DO リスト」の活用方法についての研修を深める必要がある。